

令和 2 年度 学校自己評価表 (計画段階)

福岡県立鞍手竜徳高等学校長 印

学校運営計画 (4月)		評価 (3月)		
学校運営方針 教職員が一丸となり組織的に生徒に基本的な生活習慣と学習習慣を身に付けさせ、生徒一人一人の進路実現を図るとともに、自らの志に向かって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ生徒の育成をめざす。				
昨年度の成果と課題 1 学校運営方針に基づき職員の協働によって、学校全体が落ち着き、地域や中学校からの信頼が高くなってきている。更に、学習面や生活面の指導において、基礎基本の習得を徹底することを継続し、地域や中学校からの信頼をより高めると同時に、生徒の社会的自立に努める。 生徒募集では昨年度から特色化選抜を実施したが明確な成果となっていないが、本年度は入学志願倍率が1を超えた。 これは私立高校の動向変化と推量されるが、入学者選抜が今後もこの傾向が続くかどうかなど、次年度に向けての方策を考えていく必要がある。 2 基礎学力向上や授業改善に向けた取り組みで、学習意欲や基礎学力の向上がみられるが、これらを具体的に評価できる手段の策定が必要である。 今後も本校独自教材及びICTを活用し、主体的・対話的で深い学びを目指した授業への改善を推進する。本年度から学校設定教科・科目として「キャリア形成」を開設し、更なる生徒の意欲や学力の向上に努めたが、実施にあたり改善すべき点も散見することから、次年度計画の見直しを図る。 3 総合的な学習の時間、特別活動を通して生徒に自尊感情の高揚が見られる。 今後も更に、学校行事及びボランティア活動、部活動等の成果を積極的に地域社会に発信することで、開かれた学校づくりを推進し、保護者や地域から信頼される学校をめざす。 4 生徒の自己実現を可能とする「生きる力」を育む取組は、人権教育の重要な柱である。 教科指導、生徒指導、学級経営など、その活動の全体を通じて、人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」に取り組む。 5 地元中学校との信頼関係は強固になりつつある。宮若東中学校校区の研修会や大学及び地元企業、専門教育を支援する関係団体等の外部資源を積極的に活用した教育活動の充実をめざす。 6 「地域産業教育連携推進事業」の3年間が終了したが、次年度より高校教育課産業班より継続支援を受けることが決定している。小竹高等技術専門校に限らず、広く充実した施設設備を用いた実習活動を実施して、工業人材の育成 (自動車関連) を推進することで、本校の教育の充実と特色化を図る。 7 本校のランドデザインについて、ホームページや広報紙等を活用して積極的に発信し、地域の理解と定着を図る。				
年度重点目標		具体的目標		
1 基礎学力の定着と自学自習力の習得	授業規律を保ち、興味・関心もてる“わかる授業”を実践することで、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。 生徒を中心に据えて組織的な学習支援に努め、基礎学力の定着を図る。 明確な目標及び評価方法を生徒に示し実践することで、指導や評価の改善を図る。	全職員の共通理解のもと、きめ細かな生徒指導を行うことで、基本的な生活習慣の徹底と規範意識の高揚を図る。 部活動や生徒会活動、奉仕活動を通して、集団への帰属意識を育成すると共に、社会性やコミュニケーション能力の基礎を培い、自尊感情の育成を図る。 能力と適性を最大限に発揮できる、進路の実現を支援する。		
2 規範意識の向上と健やかな心身の育成	能力と適性を最大限に発揮できる、進路の実現を支援する。	系統的なキャリア教育を通して、生徒の進路意識を高め、主体的な進路実現を支援する。		
3 進路希望実現のためのキャリア教育の充実	系統的なキャリア教育を通して、生徒の進路意識を高め、主体的な進路実現を支援する。	各系列の特色を生かした実習や課題研究を通して、社会で通用する資格取得を支援する。		
4 人権教育の推進及び人権に関する意識・態度・行動力の育成	地域に根差し、地域に開かれ信頼される学校を実現するために、学校の様々な情報を保護者のみならず、地域社会に向けて積極的に広報活動を推進する。	全ての教育活動を通して人権意識を高め、人権が尊重され一人一人が大切にされることが実感できる学校づくりを推進する。 特別支援教育をはじめとする効果的な研修と、スクールカウンセラー、訪問相談員、及び進路支援コーディネーターの有機的な活用を通して、効果的な支援を推進する。 各種面談や教育相談、定期的ないじめ及び生活アンケートを通して、生徒の心の動きをつかみ、いじめ及び不登校、中途退学など様々な生徒の課題への早期対応を推進する。		
5 地域から信頼される学校づくりの推進	地域に根差し、地域に開かれ信頼される学校を実現するために、学校の様々な情報を保護者のみならず、地域社会に向けて積極的に広報活動を推進する。	全ての教育活動の実施に際して、地域や同窓会、教育機関、行政機関、企業等との連携や協働を通して、本校の教育力向上に努める。		
めざす学校像		めざす生徒像		
1 生徒一人一人が確かな志をもち、夢や希望の実現に向かって挑戦する生徒を育成する学校 2 「鍛えてほめる」ことで基礎基本を身に付けさせ、鞍手竜徳生としての自信と誇りをもつ生徒を育成する学校 3 豊かな心と健やかな体をもち、生涯にわたって逞しく生きる人間を育成する学校	1 基礎基本を習得し、それを活用する生徒 2 心身ともに健康で、思いやりと感謝の心をもった生徒 3 自他の生命を大切にし、決して「いじめ」を許さない生徒 4 高い規範意識をもち、規則を遵守する生徒 5 最後まで粘り強く挑戦する生徒			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題
学務部	教務課 基礎基本を身に付けるさせるための積極的指導 学習意欲を向上させるための積極的指導	「キャリアスタディ」を年9回実施し、生徒に家庭学習の定着を図りながら、目標合格率を昨年度より4%高い85%以上に設定する。 がテスト下などを定期的に行い、生徒の理解度を把握し、「わかる授業」の実践に活かす。	A	コロナの影響で、授業方法も多くの制限がかかる中、各先生方の協力により、有意義な授業展開を行うことができた。また、観点別評価においても、年度当初に職員研修会も行うことができ、定着してきている。 今後の課題として、観点別評価が観点から観点に代わることへの対応、職員に配付した「作成マニュアル」の有効利用に努めていきたい。
		定期的な部会議を開き、各課との連携を図り、ミス「0」の業務の遂行に努める。 情報管理課と協力し、教務支援システムの円滑な運用を図る。 年度当初に、支援システムの使用法、指導要録などの「作成マニュアル」を全職員に配付する。	A	
	授業におけるICT機器の使用率向上と電子黒板の活用	授業でのICT機器稼働率80%以上を目指す。 ICTを活用できる機曾を整えるとともに、「電子黒板を活用した授業を増や」生徒の基礎学力の定着につながる教職員の授業力の向上を「活用」のための研修を充実するとともに、ICT機器の充実及び管理の徹底を図る。	A	
	広報活動の充実 情報化の推進とそれに伴う教員の負担の軽減	ホームページの更新や産報NEWSなどの定期的な発行を通して広報活動を充実させる。 広報委員会の役割分担を明確にし、学校活性化の一助となるように広報活動を推進する。 教務用コンピュータに関わるマニュアル化を進め、業務を効率化し、教員の負担軽減を図る。	A	
生徒部	生徒指導課 学校生活の安定を図る基本的な生活習慣の確立 竜徳生としての自覚の醸成と規範意識の向上	進路者数の減少および非行の未然防止を目的とした生徒指導強化週間を年開5回実施する。 学年主任との連携を図ることで、遅刻指導回数8回における指導を充実させ、遅刻・欠席回数での準停学者を各学年3名以内にする。	B	今年度、学校生活が落ち着かない状況が続く、多くの問題行動や校則違反があった。生徒の先々を考えると、学校生活を通して、集団生活・社会生活を円滑に営むためのスキルや規範意識をより一層育んでいく必要がある。そのためには、全職員が全ての生徒に対して、「差」の無い指導を実践していくことが不可欠である。次年度に向けて、規則の見直しや改訂、明文化を図り、職員に周知することが大きな課題として挙げられる。
		服装頭髪検査を年間8回行い、各学年での違反者数を延べ100名以内にする。 竜徳生としての自覚と規範意識を育むために、「ルールやマナー」集団生活に関する指導を充実し、停学者数を年間5名以内にする。 新入生歓迎行事及び体験入部を実施することで、1年生の部活動加入率70%以上を目指し、学校全体での部活動加入率を60%以上にする。	B	
	学校の活性化を目指した部活動の推進	新入生歓迎行事及び体験入部を実施することで、1年生の部活動加入率70%以上を目指し、学校全体での部活動加入率を60%以上にする。 各部の部員が相互に刺激を受け、高め合う関係を構築するために、各部活動での取り組みや成果を発表できる部活動発表会を実施する。	B	
	生徒の健康管理及び安全管理の推進	定期健康診断の実施及び事後措置、CPR (心臓蘇生法) 研修の実施する。 生徒の日々の保健衛生状況に関する情報を学年及び担任へ提供し、体調管理などの対策をとる。	A	
保健環境課	校内外における美化意識の向上	日々の活動を通して、生徒に美化意識を持たせ、校内美化に努める。 用具倉庫および掃除用具の点検と整備を定期的に行い、備品管理を徹底する。 ごみの分別を生徒に周知徹底させ、ごみの減量およびごみ袋の削減に努める。	B	
	生徒会活動としての保健・美化委員会の活性化	美化委員会を中心とした校内美化活動を行い、全校生徒の美化意識向上を図る。 保健委員室を中心とした身体測定、健康診断の円滑化を図る。	A	
	特別な支援を要する生徒への対応	スクールカウンセラー、訪問相談員と密に連携をおこない、生徒一人一人に目の向いた指導を心がける。 各学年・担任からの情報収集を密に取り、学校全体での連携を図り対応する。	A	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	
進路部	進路指導課	3年次生(16期生)の進路実現	担任・学年団との連携を密にして、生徒の進路に関する情報を共有する。 生徒の実態や社会情勢に応じて、適宜、精選した情報を発信する。 全職員で、企業訪問・面接指導を実施する。 16期生の進路実現100%を目指す。	A A B A C	A	第16期生の進路実現については、概ね達成できた。ただ、もう少しスムーズに選ぶためには、生徒の実状やクラスの状態を、より理解し、最善のサポートを心がける必要がある。希望者課外については、コロナウイルスの影響があり、実施できなかった。来年度は、実施が可能なら、生徒の希望をとって検討したい。 校内の模擬試験については、コロナウイルスの影響があったものの、形をつくれた。ただ、3年生の基礎力診断テスト第2回については、年度当初の年間行事予定を確認の上、実施の是非を判断したい。また、コロナ禍の制約の下、さまざまな体験を幅広く実施し、すべてzoomで行った。そのため、来年度は、事前に録画しておくことと、生徒からの質問事項を事前に集約することをしておきたい。	
		各学年の進路指導の充実	希望者課外は、長期休業中に集中させ、計画的に実施する。 進路行事の企画と運営を通して、生徒の進路に対する目標意識の向上を図る。 進路の手引きを発刊し、進路指導に関わる有益な情報を提供する。	A B B	B		
		進路指導関連行事の充実	キャリア学習課と連携して進路ガイダンスを実施し、生徒のキャリア形成を促す。 各学年の生徒・家族に含めて、校内外の模範発表会、より効果的な実施とする。	A A B	B		
	キャリア学習課	「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」「総合的な学習の時間」「キャリア形成」の円滑な実施と運営	学習内容を明確にし、会議等を適宜実施することで教員間の共通理解を図る。 「産業社会と人間」に関して、これらを行っている3時間のキャリア教育の基盤的な学習内容を実施し、生徒が進路選択に向けて様々な情報を得ることが出来るようにする。 「総合的な探究の時間」「総合的な学習の時間」「キャリア形成」の充実を図るために、必要に応じて該当の学年との打ち合わせを実施する。	B B B	B		系列科目選択に関しては、教務課と連携して役割分担をし、年度当初に保護者にも説明できるように準備する。 「キャリア形成」を利用し、生徒の卒業後の進路実現に対応できる基礎学力をしっかりと身につけさせる。 対外的な活動に関しては、リモートによる活動も検討する。情報管理課と連携し、総合学科としての特徴ある学習活動を発信できるようにする。
		科目選択に向けたガイダンス機能の充実	教務課と連携し、カリキュラム作成のための準備と科目群の作成、時間割の見直しを行う。 科目選択を充実させるため、カリキュラムガイダンスの学習内容の充実を図り、ミスの無い科目選択を実施する。 各学年の職員に科目選択に関する事前ガイダンスを実施し、科目選択がスムーズに実施できるようにする。	B B C	B		
		総合学科発表会の充実と、地域への情報発信の充実	「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」「総合的な学習の時間」の学習内容を踏まえ、各系列の特色を生かした総合学科発表会を実施する。 ホームページ等を活用し、学校行事や学習内容の発信を充実させる。	A C	B		
研修部	研修課	研究授業の推進	研究授業の内容を充実させ、ICTやアクティブラーニングを使った授業展開の方法を確立させる。 研究授業の参観者と協議会の参加者を増やし、料を越えて授業研究を行う場を設ける。	A A	B	今年度はコロナ禍で研修が中止、またはリモートの形式になった。その中で多くの先生方がzoomを使った研修に参加し、オンラインで行う研修の方法に慣れることができた。来年度以降、状況がどのようになるかは不透明だが、オンラインという選択が必ず出てくると思うので、この研修方法をすべての先生方が行えるように環境を整えたい。	
		職員研修の充実と精選	時宜に応じた職員研修を行い、教育活動において重要な案件について職員間の共通理解を図る。 外部講師を招き、職員が多くの知識を吸収できるような研修を企画する。	B B	B		
	図書館活動の充実	効率的な図書館利用を司書と協力して推進する。 図書実習の活動を活性化させ、校内外の研修を充実したものににする。	A B	A			
	庶務課	PTA活動の活性化と、PTA総会の充実	他の分掌や保護者と連携をとり、学校運営に関して業務分担を図り、企画・取組を効率よく行う。 各委員の業務内容を精選し、役員日程を考案する。また教育活動に貢献を促すため主たるPTA活動の充実、協力体制の組織化を行う。	A A	A		
体験入学や広報活動を通しての中学生や地域へのPRの充実		学校の様々な魅力を校内外にPRできるように、刊行物の充実、HPの更新を定期的に行う。 体験入学の内容を精選し、中學生に本校生徒の日常生徒生活、卒業後の進路についてなど多々の情報提供を行えるようにする。	A B	A			
人権・同和教育部	人権・同和教育部	すべての教育活動を通して人権意識を高める指導の推進	人権・同和教育授業の事前学習や振り返りを計画的に行い、人権意識を効果的に高めることができるように努める。 新入生対象の人権教育アンケートで、生徒の人権問題の理解度を把握し、効果的な指導に役立てる。 人権教育に関する職員研修を行った。研修に参加してもらって、職員の人権意識を高める。	A A B	A	人権・同和教育授業は事前学習等を計画的に行うことができた。今後は振り返りを行い次年度に適切な人権・同和教育授業ができるように準備しなければならない。コロナ禍で家庭訪問を行うことはほとんどできなかったが、個人面談の設定や、ケース会議を行うことで生徒の状況をつかむことができた。次年度は、情報等をスムーズに共有し、生徒支援に繋げることができるようにしなければならない。	
		特別支援教育推進のための研修と効果的な実践	特別支援教育コーディネーターを中心に中学校や家庭との連絡を密にし、組織的な指導体制の構築を推進する。 家庭訪問や個人面談を定期的に設定することで、生徒や保護者の状況を迅速に理解できるようにする。	B B	B		
		いじめ、不登校、中途退学防止のための早期対応の推進	「引継ぎシート」の提出された生徒には、高校として一貫した指導のため「個別の指導計画」の作成を行う。 各学年主任や担任との連携を密に取り、問題の早期発見に努める。 担任だけでなく教科担任も含めた面談を行えるようにし、様々な視点から問題の早期発見に努める。	A C B	B		
第3年次	第3年次	最上級生としての自覚と責任ある行動	体育祭や竜巻祭等の学校行事に積極的に参加し、下級生の手本となるような生徒を育成する。 課題研究の指導を通して、目標を達成するための方法を考えさせたり進める力を身につけさせる。 基本的な生活習慣を確立させ、転手電徳高校生としての自覚と責任を持たせる。	B A A	A	コロナ禍で様々な行事が中止となっていたが、できることを責任をもって行動を行う生徒が増えた。 学校生活において、自覚と責任ある行動を心がけ指導してきたが、教員間の指導にばらつきがあり一貫した指導ができていないことがあった。学年会議等、教員の意思疎通を図り、現状を把握した上で指導を徹底していきたい。 進路指導において、2年次からの取り組みが生徒の意識付けとなり、早い段階で進路を明確にすることができ、意欲的に面接指導に取り組む生徒が増えた。	
		進路を実現するための力を持った生徒の育成	生徒一人一人の適性に応じた効果的な進路指導を行う。 面接指導や進路セミナー等に目的意識を持って取り組む生徒を育成する。 進路実現100%を目指して、学年の教職員が一丸となって指導する。	A C C	B		
		社会人として必要な能力の育成	時間の管理やルールを守るなど社会生活における基礎を育成する。 敬語や挨拶など基本的なマナーや一般常識を身につけさせる。 互いに尊重できる思いやりと優しさをもち、感謝する心を育成する。	B B B	B		
		基本的な生活習慣の確立	家庭との連携を密にして、欠席・遅刻をしない生徒を育てる。(安易な早退をさせない) 大きな声で挨拶・返事ができる生徒を育てる。 ルールや時間を守る生徒を育てる。	A C B	B		
第2年次	第2年次	基礎学力の向上	日々の授業を大切にしている生徒を育てる。 宿題などの課題にきちんと取り組み、提出期限を守る生徒を育てる。 定期考査・キャリアスタディに向けて計画的に学習に取り組む生徒を育てる。	B B B	B	担任を中心に家庭と連絡を密に取ることができ、保護者と協力して学校に目を向けさせることができたと思う。一年を通して欠席が少なかったことは何よりも良かったと考える。しかしながら、言葉遣いや服装、態度等、指導者によって使い分けるところが見られるため、教員間の共通理解と統一した指導が必要であると強く感じた。次年度は最上級生として後輩の手本となるような学校生活を送らせ、進路実現を図りたい。	
		進路目標の確立	「総合的な探究の時間」および「キャリア形成」の時間を利用し、早期に進路目標を立てさせる。 校内模試、校外模試に向けて計画的に学習に取り組む生徒を育てる。 社会に出るための基本的なマナーを身につけさせる。	B B B	B		
		基本的な生活習慣の確立	家庭との連携を図り、遅刻・欠席をさせない指導に努める。 生徒一人一人の行動に目を配り、状況に応じて素早く対応できるよう指導する。 学年内の部活動加入率70%を目指し、学校生活を中心とした生活を送ることが出来る生徒の育成を目指す。	B A C	B		
第1年次	第1年次	互いに尊重し合える人間関係の構築	学年での情報共有を図り、一貫した指導を行うことで教師と生徒の信頼関係を構築する。 言葉遣いに気を付け、互いを思いやる声掛けができる関係性を育む。 自尊感情を育み、相手の立場に立った行動がとれる生徒を育成する。	B B C	B	教員間での情報共有が徹底できず、教員間で指導の差が生まれてしまった。一貫した指導を継続できるよう会議等を密に行えるよう計画していきたい。また、教員間および教員と生徒の人間関係を良好なものであるよう、互いに認め合い信頼できる関係性を構築する。 コロナ禍で、年度当初に高校生としてすべきことの指導が中々徹底できなかった。ルールやマナー指導の継続が必要である。 遅刻・欠席が多い1年であった。次年度も引き続き家庭との連携を密にし、家庭での状況把握につとめ、早い時期から進路実現を目標として指導を行う。 ホームルームや集会等での指導により、積極的に挨拶をする	
		社会に貢献できる人材育成	率先して挨拶ができるよう、ホームルームや学年集会での指導を徹底する。 ルールを守り、身元を整え、約束を確実に守り実行する力を育成する。 キャリア教育を充実させ、3年後の進路実現に向けた取り組みを行う。	A B B	B		